

# 東海北陸自動車道の全線開通

岐阜県総合企画部地域振興課

7月5日（土）に構想から半世紀を経て東海北陸自動車道が、飛騨トンネルという難工事を乗り越え全線開通しました。

今回の全線開通により、東海と北陸の2つの経済圏が結ばれ、産業、経済、文化など様々な面で交流・連携が活発化していくことが期待されています。

特に東海北陸自動車道はその8割が県内を通る重要な道路であり、岐阜県としては、東海北陸自動車道の全線開通により、いままでの東西の「結節点」から今後は「東西南北」の全方向の「結節点」として機能することで、岐阜県のみならず中部圏の活性化に寄与していきたいと考えています。

全線開通の効果として、交通量については、7月の1ヶ月間は、荘川ICと飛騨清見IC間では昨年の倍となっています。また、県内の観光地についても、北陸ナンバーの車が明らかに増えており、世界遺産で有名な白川村の駐車場では昨年7月に比べ約7割の増加、高山市の駐車場でも約1割の増加、岐阜市の長良川鵜飼の乗船客も北陸方面からのツアー客の増加により前年を上回っており、開通効果は大きいものと思われます。

これを機会に新たな連携が進んでいます。

岐阜県は全線開通日の7月5日に富山県南砺市の「岩瀬家」で富山県知事と懇談し、「富山・岐阜交流の日」協定を結びました。既に富山県とは、全線開通を踏まえ、羽田空港などでの誘客キャンペーンなど広域観光を連携して行っていますが、同協定では、広域観光、子育て支援、環境保全などの他、今後は県民レベルでの交流が進むよう7月5日を「富山・岐阜交流の日」と定め、両県の広報紙によるお互いの県のPR、両県の魅力を体験するバスツアーの実施、両県の美術館について収蔵品の相互貸借による企画展の実施、高校生を中心としてスポーツ交流の実施などを進めていくこととしています。



また、中津川市と富山県の高岡市が災害時応援協定を締結したほか、高山と金沢の両商工会議所が経済交流懇談会（仮称）を立ち上げるなど、自治体、産業界など様々な分野で広域的な連携が進んでいます。

今後とも、全線開通の効果が県内に広く、長くもたらされるよう、観光、企業誘致等各分野での取組を進めていきます。

東京県人会の会員の皆様におかれましては、秋の行楽シーズンに東海北陸自動車道を走って、全線開通で賑わう岐阜県を体験してみてください。

